

2026 年 6 月 18 日

2026 年度第 3 回社員総会／第 6 回理事会後会見 発言録

2026 年 6 月 18 日(木) 16:00～

Web ミーティングシステムにて実施

登壇： 理事(常勤) 青影 宜典

経営基盤本部 本部長 大城 亨太

経営基盤本部 法務・コンプライアンス部 部長 杉本 渉

陪席： 執行役員 窪田 慎二

司会： 広報部 部長 江崎 康子

【司会(江崎広報部長)より説明】

2026 年度第 3 回社員総会並びに第 6 回理事会後の会見を開催いたします。

社員総会は 17 日に開催されました。理事会は本日開催し、先ほど終了いたしました。中 1 日での開催となったことから発表事項は社員総会と理事会と併せて本日ご報告いたします。

本日の発表事項として、2027 年 6 月期、いわゆる 2026/27 シーズンに向けた予算の承認が 1 件、クラブライセンス交付の件が 1 件、懲罰決定の件が 1 件、最後に U-21 出場奨励助成金に関するリリースを 1 件、出させていただきました。

続きまして本日のオンライン上での出席者をご紹介します。

理事で経営基盤領域を担当いたします、理事で常務執行役員の青影、経営基盤本部本部長の大城、法務・コンプライアンス部部長の杉本、陪席としてフットボール本部担当執行役員の窪田が出席しています。

それでは 1 件目、6 月 17 日に開催された社員総会の決議事項 2 件についてご説明いたします。

1. 2027 年 6 月期 事業計画書の件

<https://aboutj.jleague.jp/corporate/assets/pdf/plan/plan-2027.pdf>

2027 年 6 月度、2026/27 シーズンに向けたものが承認されました。コーポレートサイトに掲載しております。

2. 2027 年 6 月期予算について

<https://aboutj.jleague.jp/corporate/pressrelease/article/15986>

2026/27 シーズンの予算が承認されました。こちらにつきましては青影よりご説明いたします。

〔青影 理事(常務執行役員)より説明〕

2026 年 6 月決算見込み、2027 年 6 月期予算の概要

■シーズン移行を契機とした成長を加速するための戦略的投資を計画

- 2026 年 6 月期決算の経常増減見込みは▲53.9 億円となるが、特別大会を盛り上げる大規模な集客・露出施策の実施による
- シーズン移行後初年度となる 2027 年 6 月期の経常収益は、過去最高となる 359.4 億円を予算化
- 経常費用は 412.3 億円の予算となるが、クラブへの配分金予算の増額、新シーズンの開幕認知を高めることなど例年以上に入集客・露出費用を予算計上している
- 2028 年 6 月期以降は、さらなる収益増加等により、財政状況は安定して推移する見通し

2027 年 6 月期の予算についてリリースの表で全体感をご説明いたします。いわゆる当期純利益は表中の当期経常増減、当期一般正味財産増減額の欄でご確認いただければと思います。

左側が 2026 年 6 月期、期間としては 6 か月。それから 2027 年 6 月期、期間としては 12 か月となります。対応する期間が大きく違いますので、単純な比較はできないという前提で見ていただければと思います。シーズン移行に合わせ、Jリーグでも決算期を 12 月末から 6 月末に変更しています。よって、その関係で移行年度の 2026 年の 1 月からは 6 か月間の決算となり、このような予算設計をいたしました。

今回、6 月の決算の着地ではなく、来たる来月から始まる 2027 年 6 月期の予算について社員総会で決議されましたのでその内容を皆さんにご説明いたします。

金額の全体感で申し上げますと、当期一般正味財産増減額は、予算上、2026 年 6 月期はマイナス 43 億円。それに対して予算 12 か月の 2027 年 6 月期に関しては、マイナス 52 億 8,800 万円で予算計上しています。

両期間ともに決算期間は違うものの、これだけ大きなマイナスの金額に至っている理由といたしましては、シーズン移行に合わせたクラブへの経営上の様々な助成や配分金の増額、また B to C 領域への先行投資、そういったものを 2 期間、1.5 年の間で通常よりも多くの予算を投資していますので、経常増減額としては大幅なマイナスとなっています。一方で経常収益の合計額、売上の順調に推移しており、2025 年の 1 年間の売上金額と比べても 2027 年 6 月期の 1 年分増加している状況です。後ほど別の資料でご説明いたします。

この半年間を 2 倍にした数字と右側の 12 か月を対比したときに、様々な経営状況やお金の予算のかけ方が違うこともございますので、単純に 2 倍すればよいかというとそうではございません。その中でも大きく違う点は、表中の事業費の下のリーグ運営経費。こちらが 2026 年 6 月期の 6 か月分で 41 億となっていますが、12 か月分でも 48 億円となっています。そのため、単純に 2 倍で試算されてもしっかりこないかと思います。ご説明いたしますと、2026 年 6 月期の 40 億の中には、この期間、通常とは違うレギュレーションで明治安田Jリーグ百年構想リーグを各クラブには運営い

ただきましたので、様々な不測の事態が発生することに備えて、リーグとしては通常の配分金の半年分に加えて、経営型のクラブへの助成金を合計 18 億円支出しています。拠出方法については既にご説明済みですが、合計 18 億円入っていますので、その違いが大きくあるということをご認識いただければと思います。

続いてもう一つの資料でご説明いたします。

2026年6月決算見込み、2027年6月期予算の概要



- シーズン移行を契機とした成長を加速するための戦略的投資を計画
- 2026年6月期決算の経常増減見込みは▲53.9億円となるが、特別大会を盛り上げる大規模な集客・露出施策の実施による
 - シーズン移行後初年度となる2027年6月期の経常収益は、過去最高となる359.4億円を予算化
 - 経常費用は412.3億円の予算となるが、クラブへの配分金予算の増額、新シーズンの開幕認知を高めることなど例年以上に集客・露出費用を予算計上している
 - 2028年6月期以降は、さらなる収益増加等により、財政状況は安定して推移する見通し

	2025年12月期実績(12ヵ月)	2026年6月期決算見込み(6ヵ月)	2027年6月期予算(12ヵ月)
経常増減	14.4億円	▲53.9億円	▲52.9億円
	346.3億円		359.4億円
経常収益	公衆送信権利収益 221.9億円	177.1億円	公衆送信権利収益 222.2億円
	協賛金収益 70.9億円	協賛金収益 43.5億円	協賛金収益 86.4億円
	その他収益 53.5億円	その他収益 29.9億円	その他収益 50.8億円
経常費用	クラブへの配分金 127.4億円	クラブへの配分金 65.0億円	クラブへの配分金 145.1億円
	試合運営原価 37.8億円	試合運営原価 48.8億円 (うちクラブ経営補助助成金18.0億円)	試合運営原価 48.3億円
	ファン拡大施策費/ローカル露出・放送局対応費 39.7億円	ファン拡大施策費/ローカル露出・放送局対応費 35.0億円	ファン拡大施策費/ローカル露出・放送局対応費 64.7億円
	その他事業費・管理費 127.0億円	その他事業費・管理費 82.1億円 (うちJリーグ降格エリア施設整備助成金3.8億円)	その他事業費・管理費 154.2億円 (うちJリーグ降格エリア施設整備助成金3.8億円)
	331.9億円	231.0億円	412.3億円

こちら例年通り前年の実績 2025 年 12 月決算の実績が 1 番左の棒グラフで表され、真ん中は進行年度 2026 年 6 月で終わる 6 か月間の決算の着地見込み、それから今回決議された 2027 年 6 月期の予算 12 か月分が一番右側です。上段の経常収益、こちらが一般事業会社の売上にあたるもの、下段の経常費用が原価や販管費が含まれているものです。よって、棒線より上のものから下のものを引くと、経常増減としてボックスに書いているものが利益となります。2025 年 12 月は 12 か月決算で 14 億円の利益でしたが、先ほどご説明した通り、2026 年 6 月期と 2027 年 6 月期は、シーズン移行に向けて様々な投資をするタイミングとなっていますので、大幅なマイナスとなっていますが、基本的には特別大会および新シーズンを盛り上げるための大規模な集客露出施策やクラブへの配分金の増加、新シーズンの開幕認知を高めることに対し例年以上に経常しているということです。このような形であったとしても、過去の内部留保や売上の増収によってJリーグの財務状況は安定して推移する見通しです。28 年 6 月以降大きくこの数字は変わるかもしれませんが、比較的安定してJリーグの経営はできていることは併せてご説明させていただいています。

今日説明した内容のサマリーを冒頭 4 点トピックスとして記載しておりますので、是非こちらを改めてご確認くださいと思います。

【質疑応答】

Q: 当期経常増減額が約 52 億円の赤字予算ということですが、予算段階でこのくらいの赤字を想定しているというのは、これまでと比べるとどのくらいの規模感なのでしょうか。

A: 青影理事

コーポレートサイトにも数字は載っていますので、そちらをご覧くださいれば規模感がわかると思いますが、このレベル感での投資によるマイナスの予算は、過去には例がありません。ただ繰り返しのありますが、通常の経済活動、ビジネス活動によつての赤字とは認識しておらず、あくまで様々なシーズン移行・特別大会を盛り上げる観点での先行投資により、一時的に費用が売上を超過しているだけと考えています。ビジネス上の P/L の通常の赤字とは大きく異なるということだけご理解いただければと思います。

Q: 過去最大級にはなるのでしょうか？

A: 青影理事

最大レベルの投資というように表現していただければ適切かと思います。

Q: クラブへの配分金が 2025 年 12 月期実績で 127.4 億円、来季の 12 か月 2027 年 6 月期予算は 145.1 億円となっています。約 17～18 億円アップしていますが、どのような理由でしょうか？

A: 青影 理事

複数の要因があります。一つはこれまでもお伝えしていた、キャンプの費用として配分金の増額をクラブに約束しており、それが新しい期から入っているためです。また、Jリーグの売り上げも入場者数が増加し、収入が増えているため、クラブへの均等配分金も一部増やしています。

【司会(江崎広報部長)より説明】

続きまして、本日開催いたしました第 6 回理事会の決議事項および報告事項です。

《理事会決議事項》

1. クラブライセンス判定の件

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15987>

先月 5 月の理事会で、2026/27 シーズンのクラブライセンスの交付を発表しました。その際に財務基準の観点で継続審議となった高知ユナイテッドSCに対して改めて審議のうえ、ライセンス基準

を充足することとなりましたので、今月の理事会でJ3ライセンスの交付が承認されました。これをもって、2026/27シーズンの全 60 クラブにライセンスが交付されました。

《理事会報告事項》

1. 懲罰決定について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15988>

法務・コンプライアンス部、部長の杉本よりプレスリリースに基づき説明

2. 2026 特別シーズンにおける U-21 選手の出場奨励助成金について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15989>

2026 特別シーズンにおける U-21 選手の出場奨励助成金について、支給対象クラブが決定しました。下記の 6 クラブに支給されています。こちらは、対象大会で合計 1,800 分以上に該当するクラブが助成対象となっています。なお、本助成金制度ですが、2026/27 シーズン以降は、5 月の理事会で発表させていただきましたホームグロウン表彰制度を設定することに伴い、今シーズンをもって廃止となります。

■支給対象クラブ(6 クラブ) ※出場時間順

J2: 藤枝MYFC、FC今治、いわきFC、アルビレックス新潟

J3: ギラヴァンツ北九州、福島ユナイテッドFC

***質疑応答なし**

江崎広報部長

それでは以上を持ちまして、第 3 回社員総会ならびに理事会後の会見を終了いたします。